

在宅患者数は多くの地域で今後増加する

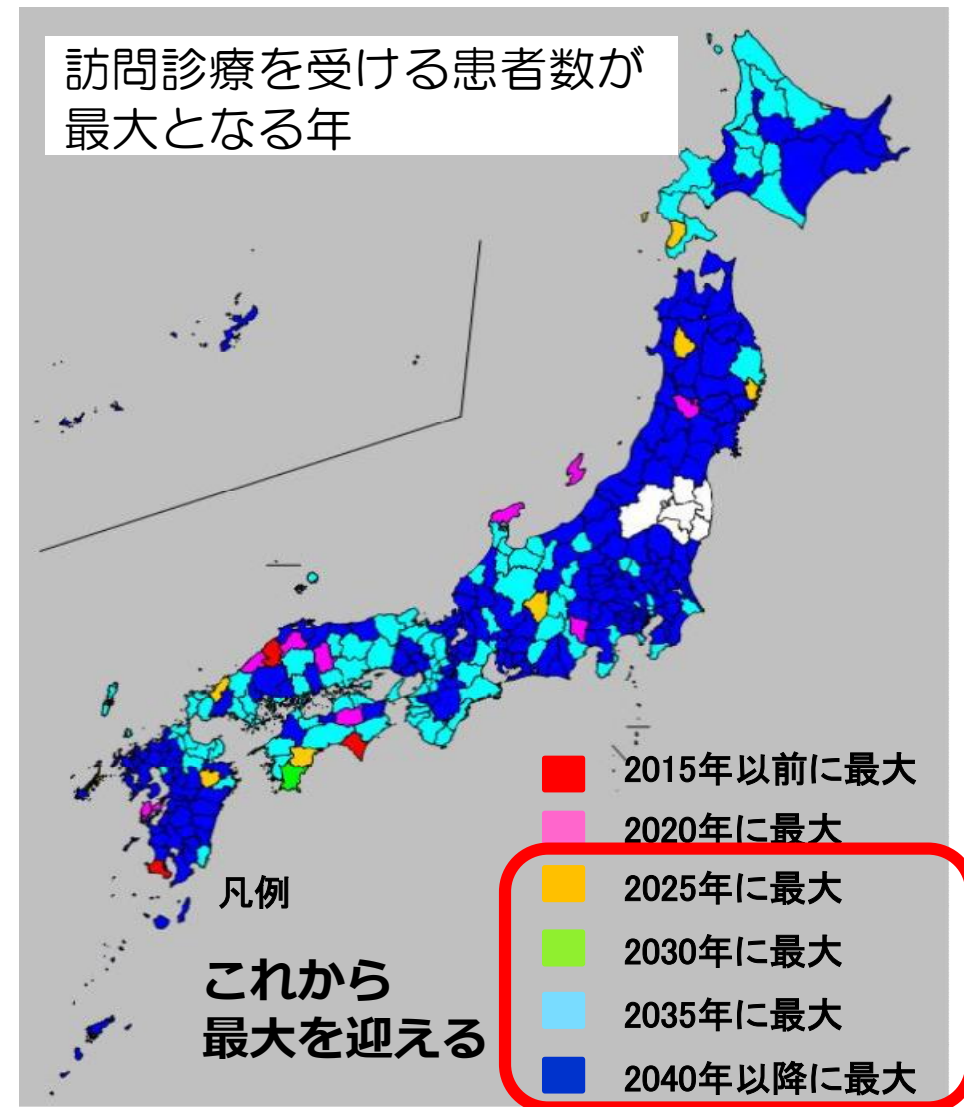
第7回第8次医療計画等に関する検討会（令和4年3月4日）

- 在宅患者数は、多くの地域で今後増加し、2040年以降に203の二次医療圏において在宅患者数のピークを迎えることが見込まれます。
- 在宅医療のニーズが益々、高まり、「医師・看護師の不足が懸念される」一方、「薬剤師の役割」が重要度が増すと言われています。



在宅医療に
薬剤師も同行

出典:患者調査(平成29年)「推計患者数、性・年齢階級×傷病小分類×施設の種類・入院一外来の種別別」
「推計外来患者数(患者所在地)、施設の種類・外来の種別×性・年齢階級×都道府県別」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」



地域をつなぐフォーミュラをめざして

かかりつけ医はさまざまな慢性疾患の患者を専門外の診療科であっても診なければなりません

**プライマリケアのための医薬品を
中心に地域フォーミュラを作成**



- ▶ 地域における実臨床で活用できるフォーミュラを共有できれば地域包括ケアにもつながると思います





当院では地域をつなぐフォーミュラ実現のために、周辺の薬局と連携し、単に薬剤費を削減するという観点だけではなく、地域連携を強化するツールとしての地域フォーミュラの作成と運用を目指してまいりたいと思います。

注意事項

- ▶ フォーミュラリ医師の処方権を侵害するものではありません。
- ▶ 本フォーミュラリを、企業のプロモーション等にご利用しないでください。
- ▶ 「標準的治療」の指標であり、患者毎の疾患や症状によって適応できない場合は、個別での対応となります。